

指導者 T1 横関 正俊

T2

GT 地域の方(2名)

1 単元 戦争を体験した人々とくらし

2 目標

- (1) 15年戦争について関心を持ち、当時の国民の生活の様子や人々の思いについて進んで調べようとする。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- (2) 戦争の実態や悲惨さについてまとめ、平和の尊さについて自分なりに判断し、考えることができる。(社会的な思考・判断)
- (3) 聞き取り調査や各種資料の活用により、15年戦争における当時の人々の暮らしについて調べ、工夫してまとめることができる。(観察・資料活用の技能・表現)
- (4) 戦前から終戦に至るまでの社会的情勢や当時の人々の苦しい生活について理解することができる。(社会的事象についての知識・理解)

3 指導に当たって

これまでに児童は、「世界に歩みだした日本」の単元で、日清・日露戦争において多大な命が失われ、大きな損害があったことを学習した。本単元は、満州事変を契機として日中戦争を勃発させ中国を侵略していったこと、さらにはその戦争をアジア・太平洋へ拡大し15年という長い歳月に渡って続けられた一連の経過をつかませるとともに、それぞれの戦争の原因や戦況・被害、当時の人々の生活をつかませることをねらいとしている。

意識調査

友達と協力しながら調べ学習を進めることができますか。			
はい	17名	どちらともいえない	21名
		いいえ	1名
戦争は正しいことだと思いますか。			
はい	3名	どちらともいえない	10名
		いいえ	26名
今、世界で起きている戦争についてどう思いますか。(複数回答)			
国民がかわいそう	15名	恐ろしい	13名
		意味がない	11名
多くの犠牲者がでる	8名	話し合うべき	6名
		起きてほしくない	5名

歴史の学習や戦争に対する本学級の実態は上記の通りである。戦争については、ニュース番組などから、今、世界で起きている戦争について関心がある児童が多く、戦争は愚かで恐ろしい行為だと考えている児童がほとんどである。

そこで、戦争体験のない児童たちに戦争の悲惨さや生活の苦しさを実感させるために、戦争の時代を体験した方に直接話を聞くことによって、当時の人々の気持ちに気付かせ、追究意欲を高めていきたい。また、資料収集、まとめ、発表という学習活動の中で、児童の多様な願いや学びに対応するためにTTにより支援していきたい。さらに、戦争が大きな人権侵害であり、二度と繰り返してはならないということをとらえさせるとともに、命の大切さや、平和な世の中にしていくためにどうしたら良いかなどについても考えさせていきたい。

4 指導・評価計画（8時間扱い）

時間	学習内容	観点別評価				評価規準（評価方法）
		関	考	表	知	
1	戦争を体験したお年寄りに話を聞き，戦争について関心を深め，調べる計画を立てる。					戦争について聞き取ったことをもとに，その時代への関心を深めるとともに，疑問に対する予想や解決の方法を考えている。
2	グループごとに，学習課題～について調べ，新聞や発表資料にまとめる。					友達と資料を交換したり，話し合ったりしながら，調べたこと考えたことを冊子や新聞にまとめている。
6 7 本時	グループごとに調べたことを発表し，戦争の悲惨さや国民生活の苦しさについて考える。					課題について調べたことを発表したり，聞いたりして，自分の考えを深め合う中で，戦争は悲惨であり，人権侵害であることに気付いている。
8	戦争について考えたことや思ったことを，お年寄りへ手紙を出すことによって表現する。					戦争の経過と，国内外の被害や人々の苦しい生活を関連付けることで，戦争の悲惨さと平和の意義について考えている。

5 本時の学習

(1) 目標

戦争の経過，国内外の被害，人々の生活の様子など，発表したり聞いたりしたことをもとに，戦争の悲惨さや人々の生活の苦しさについて，自分の考えをもつことができる。

(2) 人権教育の視点との関連

戦争が国内外にもらした大きな損害や戦争中の暮らしについて発表したり，聞いたりしたことをもとに，戦争について考える活動を通して，本校の人権教育の視点(2)「物事を自分の意志で正しく判断し，行動することができる」に迫りたい。

(3) 準備・資料

学習計画表・自己評価表，発表資料（歴史新聞），発表聞き取りシート，感想カード

(4) 展開

（ は人権尊重の精神を養う上での配慮事項）

学習活動・内容	教師の支援と評価	
	T 1	T 2
1 本時の学習問題を確認する。 戦争の経過，国内外の被害，人々の生活などについて，各グループで調べたことを発表し，戦争について考えよう。		
2 それぞれの課題について調べたことを発表し合う。 予想される追究課題 [戦争の悲惨さ] ・中国との戦争が広がる	・前時と同じく，課題別の二つに分かれ学習を進める。 ・「戦争の悲惨さ」について考えを深めていくよう支援する。	・「国民生活の苦しさ」について考えを深めていくよう支援する。

「たくさんの中国の人たちが犠牲になってかわいそうだ。」

- ・世界に広がった戦争

「アジアや太平洋の多くの国や地域が戦場になったんだ。」

[国民生活の苦しさ]

- ・戦時中の国民の生活

「食べる物や着る物がなくて苦しかったらうな。」

- ・自分の地域の戦時中の様子

「親と離ればなれになってかわいそうだな。」

- ・戦時中の日本各地の出来事

「都市が焼け野原になり，たくさんの人が死んだんだな。」

3 発表を聞いて分かったことや考えたことについて話し合う。

予想される考え

[戦争で得たものや失ったもの]

- ・満州，中国，アジアを支配していった。
- ・ナンキンではたくさんの人たちが日本軍に殺された。
- ・たくさんの若者が戦場に行き死んでいった。

[国民が一番つらかったこと]

- ・食べ物や衣料が切符制になり制限された。
- ・空爆を避けるため，防空壕をつくったり，田舎に疎開したりした。
- ・沖縄で地上戦があつたり，広島，長崎に原爆が落とされたくさんの人が死んだ。

4 ゲストティーチャーのお話を聞く。

- ・戦争を語り継ぐことへの思い
- ・子どもたちへの願いや期待

5 考えをまとめ，感想を書く。

- ・とくに印象に残ったこと
- ・これからの自分の生き方や大切にしたいこと

- ・二つに分かれた中でそれぞれ，2つのグループに調べたことを発表させる。

- ・1グループの発表時間を約8分とし，この時間の中で，発表，質疑応答ができるようにする。

- ・この後の話し合い活動の準備として，発表を聞いた後に，「話し合いの視点」に対する自分の考えを書く時間をとるようにする。

評 「戦争の悲惨さ」について調べたことや考えたことを，工夫して分かりやすく友達に知らせている。

(発表，観察)

評 「国民生活の苦しさ」について調べたことや考えたことを，工夫して分かりやすく友達に知らせている。

(発表，観察)

戦争について考えを深めるために，次のような視点を明確にし，話し合いを進めさせたい。

「戦争の悲惨さ」

戦争で得たもの失ったものはなんだろう。

「国民生活の苦しさ」

国民が一番つらかったことはどんなことだろう。

- ・学習課題について調べる段階で，上のような視点について考えている児童には，事前にメモさせる。戦争に対する自分の考えを，自信をもって発信できるようにするとともに，自分と違う友達の考えも尊重できるように聞かせたい。

評 発表したり聞いたりしたことをもとに，戦争の悲惨さや命の尊さについて，自分の考えをもっている。

(発表，聞き取りシート)

評 発表したり聞いたりしたことをもとに，当時の人々の気持ちや生活の苦しさについて考えている。

(発表，聞き取りシート)

- ・1時間目に戦争体験を話していただいたゲストティーチャーを再び招待し，発表や話し合いに参加してもらおう。また，最後に，戦争に対する思いを話していただくよう依頼しておく。

- ・今まで学習してきたことを振り返り，戦争と平和について自分の考えをもたせ，表現させたい。また，このことを次時の活動の「ゲストティーチャーへのお礼の手紙」につなげさせていきたい。